

富山大学人文学部国際シンポジウム

東アジア社会の日本語、そして日本

—日本語のプレゼンス向上と日本観の変容—

日本語は、使用人口で言えば、世界第8位の大規模言語であるが、国連の公用語でもなく、その地位は、我が国の国力に比べてなお低い。国際社会において、日本と日本人の存在を高めるカギは、日本語のプレゼンスを高めることにかかっている。

本シンポジウムは、留学生や移動労働者を送り出す側のアジアの研究者と受入社会の側にいる日本の研究者とが、「日本語」に注目し、その教育の現状や交流に関する分析をおこなう。とともにその習得によって、国家や地域、民族や文化に対するまなざしがどのように変容するのか。また日本語のプレゼンス向上が留学生や移動労働者の増加にどのような影響を与え、近年わが国がかかえる国際社会における地位低下をはじめとする諸問題解決にどのような方策をもたらすのか。その課題と解決にむけ、国内外の著名な研究者を招聘し、各分野の専門的見地から広く討議する。

日時：平成28年12月17日（土）13:00~17:30

場所：富山大学人文学部3F 第6講義室

プログラム

開会あいさつ

オープニングスピーチ：日本語の習得と日本観の形成

大工原ちなみ（富山大学人文学部長）

中井精一（富山大学）

基調報告：日本の国際戦略と日本語教育・留学生教育

三原育子（大阪大学）

第一部：研究報告

ベトナム国における日本語教育の現状と課題

ガウ・ミー（ハノイ外国語大学）

タイ国における日本語教育の現状と課題

後藤寛樹（国立行政開発大学院大学）

中国における日本語教育の現状と課題

張盛開（静岡大学）

（休憩）

第二部：課題と解決の方策

留学生の受け入れと送り出しの現状1

市島佑起子（鹿児島大学）

留学生の受け入れと送り出しの現状2

ダニエル・ロング（首都大学東京）

新しい日本語教育とその方向

松田真希子（金沢大学）

第三部：総合討論

総括コメント

岡田浩樹（神戸大学）

連絡先：中井精一（事務局・富山大学人文学部）076-445-6204

nakai@hmt.u-toyama.ac.jp